



宇宙

Vol.53

●題字は深町正喜氏



相馬の景色（岩里正生氏 撮影）

■ 理事長メッセージ 2	■ 新人紹介 6
■ 震災ボランティアレポート 3	■ 日田漫歩 ③⑨ 8
■ 新任医師紹介 5	キドニカテカケシ
■ かんたんレシピ no.5 5	■ 今後の行事 8
■ 聖陵トピックス 5	

相馬からの道 寡黙な東北人達は

南相馬との境にそって東へ走ると海に出た。泥の中に2～3軒の家らしきものが残っていた。数人の人が何かを探している様子が見られた。多分、行方の分からない家族の身体、その人にとって大事な思いがつまった物。

そこは色のない世界だった。灰色の空、灰色の海、そして泥だらけになった田んぼ。一本の花も草もなかった。カメラを取り出してフィルムをネオパンSS（白黒）にセットした。とてもカラーでは撮れない景色だった。自分が今迄歩いたイラクやカンボジアの戦場よりずっと厳しい色をしていた。少なくとも、カラー写真が撮れないと思ったのは初めてだった。

政府は信じられない程低い数値を放射性濃度として発表を続けていた。そして、センターに居る医者は、誰もその数値を信じてはいなかった。我々は車やガソリンの事を考えると、撤退するべき時にきていると思った。明日、神奈川県 DMAT も大勢入るとの事だった。夕方、ある避難所に向かった。玄関の張り紙、「母ちゃん、俺は大丈夫だよ」「生きてたら〇〇避難所へ」戦後の「尋ね人」（NHK ラジオ）の様だった。センターに戻り、寝袋にもぐりこんで朝を迎えた。

お世話になった保健センターの向側に美容室があった。そこでは毎朝一人の美容師さんが道具を磨きガラスを拭いていた。この状態でお客さんが来るはずもないのに、毎日一生懸命作業を続けていた。急遽、自分達が脱出する事になったこの日もそれは変わらなかった。

その先の学校では、おにぎりが配られていた。自分も一個もらったが美味しかった。学校の保健室に盲目のばあちゃんと養護の先生が生活していた。別れを告げに行った時も、ばあちゃんは自分を助ける為に生命を落とした高校生の事がどうしても頭から離れない様だった。この事に関しては、いつも「何故」という言葉がつかまとうのは当然かも知れない。養護の先生は、自分が連れていたはずの4人の生徒が消えた事、そして、未だ身体が見つからない事が何よりも辛いとはっきりし

た口調で話した。

相馬は何か話している。発信している。それは支援を求めるという事ではない様に思える。

彼等は自分の心の中で「何か」を探している。それはあきらめる事、信じる事、希望を持つ事、それらがごちゃ混ぜになった「何か」であろう。相馬の長い歴史の中で、こんな困難な状態に陥った事は初めてであろう。然し、生きていかなければならない。彼等、相馬人は、元々人をお願いしたり、支援を求め事が出来ない人達である。だから歯を食いしばって前に進むのが、彼等の生きる事である。

出発して1時間経った。霊山町に入ると吹雪となった。どうにかして郡山に着かなければ帰る道はない。相馬の人も帰る所はない。

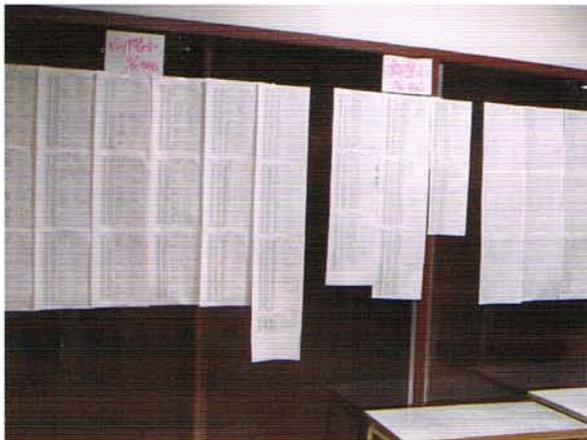
はにかんだ微笑を浮かべる相馬の人に何かをしたい。見送ってくれたセンターの職員、瓦礫の事、野馬追いの事ではない。まず、相馬や東北の人を知ること、一緒に悲しむ事の様な気がする。相馬からの道はそこから始まる。放射能除去の方法を工夫すること、落葉との関連。落葉に放射能が多いという事は、逆に落葉を使って放射能を集められるという事だろう。又、地下水を利用して除染する事が出来るはずだ。相馬人はいろんなことを考えて、その方法を外の社会に発信していく義務もあると思う。自分達はボランティアを地区別、職業別に分割し、支援を行うことだと思っている。雪の中で郡山の町が見えてきた。ガソリンスタンドには何キロも車が列をなしてガソリンを求めている。何も無い町に残されたものは、絶望ではなく一歩前に入る勇気を持った相馬の心だ。



第1次震災ボランティアレポート

今回の支援ボランティアでの活動期間は3日間と短かったのですが、6ヶ所の避難所を回りました。その中で1日に20人近くの患者さんを診ることが出来ました。もともとの持病でリハビリを希望された方もいましたが、硬い床で寝ることで腰が痛くなったり、いろんなストレスから肩こりや頭痛がみられる方もいました。行く前は現地の情報も少なく、本当に私が行って何かの役に立つのかと不安でしたが、関わったみなさんから温かい言葉を頂いたときは、少しは私でも力になれたのかもと感じ、とても嬉しく思いました。

実際に相馬の方たちと接してみて、原発などこ



震災ボランティアレポート



れから先の不安を抱えながらも少しずつ現実を受け止めていっているように感じました。ここでどうやって生活していこうか、復興に向けてどんなことをしていかなければいけないか、みんなで「故郷」というものを守りたいという皆さんの想いを強く感じました。まだまだやり残した事はたくさんあり、予定よりも帰るのが早くなったことに残念な気持ちもありますが、復興に向けてまだまだ長い道のりの中、いつかまた相馬に行ける日が来ることを願いながら支援を続けていこうと思います。

聖陵岩里病院 桑野早苗

第2次震災ボランティアレポート

私たちが主に行った場所は、宮城県石巻市市街地と女川町の2カ所でした。それでも地震や津波の被害に遭われた範囲からするとほんの一部です。

行方不明の方は5千人ほどおられ（H 23.7 現在）、未だ大変な思いをして過ごしておられます。



まだ手つかずの所もあり、復興にはまだまだ時間が掛かります。そしてたくさんの『人間』の力がが必要です。時間が経つにつれ人の記憶や気持ちは薄れていきますが、これからも微力ながらも応援を続けていきたいと思えます。

聖陵ストリーム 井上旭・松岡重喜・武内智加子

震災シンポジウム

2012年2月11日(土)、震災11ヶ月後の報告会という事で「地震、津波、そして現在」と題し、パトリア日田にてシンポジウムを開催しました。日本緊急援助隊チーム大分代表の梅山忠信さんからの呼び掛けで、聖陵会からは2名の職員がボランティアスタッフとして参加してきました。

当日はゲストとして宮城県石巻市からお招きした浜谷さんご夫妻を、朝から日田市内の観光にお連れしてきました。三隈川の河畔から祇園会館、豆田町散策、元気の駅など色々巡りました。和菓子職人という事も聞いていたので、赤司の羊羹屋さんとのそば饅頭屋さんにも立ち寄りしました。甘さが控えめだと感想を述べておられました。

午後からシンポジウムは開かれ、昨年5月と7月に現地で行ったボランティア活動の報告を始め、12月にサンタプロジェクトとして現地ボランティアに訪れた事、そして石巻市門脇町で浜谷さんご夫妻が実際に体験した地震と津波の話、それから現在の仮設住宅での暮らしぶりなどをお聞きする事が出来ました。

地元で消防団の分団長を務める浜谷さんは、「普段から地域で防災訓練を実施しておく事が大事」と話をされ、チーム大分代表の梅山さんからは、「昭和28年には日田でも水害があった事を忘れずに、大雨でダムが決壊した時などの想定をしておく必要がある」と話されシンポジウムは終了しました。

今回、浜谷さんご夫妻の話を聴く事が出来て、地震・津波の恐怖、そしてまだまだ復興はこれからなんだという再確認が出来ました。そしてボランティア活動で現地に行った時、避難所の方々が言われていた『忘れないでほしい』という言葉が再度心に刻み、今後も出来る範囲での支援を続けていきたいと思えます。

ご来場下さいました皆様に、心より感謝申し上げます。有難うございました。

聖陵ストリーム 井上 旭



義援金(平成23年3月12日~平成24年4月まで)

H23.3.26: 第1次震災ボランティアによる募金
300,000円

H23.3.26: 聖陵会芸能隊に頂いたお花
100,000円

H23.3.30: 相馬市(教育振興子育てに関する事業)
500,000円

夏祭りのバザー・屋台による収益金・募金
40,290円

聖陵会職員・施設利用者ご家族様による募金
41,094円

今後も、NPO法人 the tree of minority tribes を通じて、被災地に義援金として送らせていただく予定です。



砂原賢士 (すなはら けんし)

年齢 33 歳

出身地：福岡県古賀市

出身大学：九州大学（山田先生・小南先生と同じです）、H16 年卒

趣味：ドライブ、バスケット、理事長との山登り

専門：消化器内科

● 日田の印象

水と街並みがきれいです。

● 岩里病院の印象

変わっている人が多いなと思いました（自分と合うと思いました）。職員がみんな元気が良いです。

今年の四月から岩里病院に常勤医として勤務しています。二年程前から当直医としてお世話になっていたのですが、意を決して就職しました。今までは消化器内科を専門としていましたが、こちらに来てからはどの疾患にも幅広く対応できるよう日々勉強しているところです。日田市の印象ですが、緑と水がとても綺麗ですし、街並みも風情があってとても気に入っています。この街の医療に少しでも貢献できるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

Seiryō Topics!!

お花見

平成 24 年 4 月 4 日入院患者さん 11 名スタッフ 20 名でのお花見が中ノ島公園で開かれました。

前日の天候が嘘の様に天気良く風は、少し吹いていましたが暖かい日差しの中、中原看護師の奏でる二胡に合わせ「ふるさと」「川の流れるように」春をテーマにした歌を皆さんがとても楽しそうに歌われていました。

帰りの車の中では、「そんなに寒くなくて良かったね。」「今年はお花見ができてんち思いよったけど見られて良かった、ありがとう。」などのお言葉を頂く事ができました。

移動を含め 1 時間ほどのお花見でしたがけがや急変される患者さんもいなかったので良かったです。



かんたん レシピ♪

no. 5 ビビンバ丼

【材料】2人分

牛肉/100g

下味 しょうゆ/小さじ2

酒/小さじ1

にんにく/適量

ごま油/1(焼肉のタレでもOK) もやし/50g 人参/20g

ほうれん草/50g 薄口しょうゆ/小さじ1 しょうゆ/小さじ1

ごま油/少々 ぜんまい水煮/50g 砂糖/小さじ1

テンメンジャン/小さじ3

トウバンジャン/お好みで 温泉卵/2ヶ(目玉焼きでも良いです)

【つくりかた】

1、牛肉は下味をつけておいてごま油で炒める

2、野菜は茹でて薄口しょうゆとごま油で味付けする

3、ぜんまいは、ゆでてから調味料で和える

4、熱いご飯の上に1・2・3の材料を盛り付け、温泉卵を真ん中に入れたら、

テンメンジャン・トウバンジャンをお好みでかける

◎ホットプレートでご飯を焼いてその上に具を載せるとよりおいしく

いただけます。肉も野菜も卵も入ってしっかり栄養の摂れる1品です。2月のデイケアメニューの1品です。1度お試しください。

(岩里病院栄養給食科)

聖陵会の基本理念

医療・介護及び社会的弱者に対する支援を通して、自分達の人間形成を図る

聖陵岩里病院の基本方針

1. 必要な時に、必要な医療・介護が受けられる医療法人になるう
2. 利用者・職員が、夢と感動を感じられる医療法人になるう
3. 聖陵会は、お互い研磨し、各個人が成長していく集団でありたい
4. 他人の苦しみを自分のものとして受け取れる豊かな感性を持ちたい
5. 常に地域に奉仕し、地域から必要とされる医療法人になるう



氏名／廣瀬 さや香
部署／岩里病院デイケア
職種／事務
聖陵会に入ったきっかけ
医療事務の資格の勉強をしてた事と、一族でお世話になっていたなので、お役に立てればと思いました。



氏名／岸 裕子
部署／岩里病院病棟
職種／看護助手
聖陵会に入ったきっかけ
介護（医療）の勉強がしたかったから。



氏名／諫山 貴美
部署／岩里病院デイケア
職種／介護士
聖陵会に入ったきっかけ
人と接する事が苦手な私でも、人の為に何かしてあげたいと思い入社しました。



氏名／小林 理佐子
部署／岩里病院病棟
職種／看護師
聖陵会に入ったきっかけ
病院内の環境が動きやすそうな雰囲気だったため。



氏名／財津 菜穂子
部署／岩里病院リハビリテーション
職種／理学療法士
聖陵会に入ったきっかけ
お世話になっている、花月クリニックの井原院長に勧められ入りました。



氏名／矢羽田 剛平
部署／岩里病院病棟
職種／看護師
聖陵会に入ったきっかけ
地元で就職したかった。学校の先生からの勧めで。



氏名／小関 恵太
部署／岩里病院病棟
職種／看護助手
聖陵会に入ったきっかけ
ハローワークで求人を見つけ、以前から岩里病院の話は聞いていたので、ぜひ働きたいと思い、即連絡をしました。



氏名／佐藤 夏美
部署／岩里病院栄養給食科
職種／栄養士
聖陵会に入ったきっかけ
病院栄養士として働きたかった為。



氏名／宮田 由美
部署／岩里病院病棟
職種／看護助手
聖陵会に入ったきっかけ
知り合いの看護師さんの紹介。



氏名／堀 忍
部署／花月クリニック
職種／看護師
聖陵会に入ったきっかけ
聖陵会の職員から紹介されました。



氏名／矢羽田 一美
 部署／聖陵ストリームデイケア
 職種／介護士
 聖陵会に入ったきっかけ
 ハローワークの募集をみて。



氏名／河野 久美子
 部署／聖陵ストリーム2階
 職種／介護士
 聖陵会に入ったきっかけ
 色々な事業があり、資格を
 いかせると思った。
 託児所があった事。



氏名／上村 匠
 部署／聖陵ストリーム栄養給食科
 職種／調理師
 聖陵会に入ったきっかけ
 ハローワークの募集をみて。



氏名／江田 武
 部署／聖陵ストリーム3階
 職種／介護士
 聖陵会に入ったきっかけ
 雰囲気もよく、働きやすい
 職場だと知り、ここで利用
 者さんの支援をしたいと思
 いました。



氏名／恒任 秀一
 部署／聖陵ストリーム3階
 職種／介護士
 聖陵会に入ったきっかけ
 介護に興味があったため。



氏名／金古 円
 部署／聖陵ストリーム
 職種／事務
 聖陵会に入ったきっかけ
 人と接する仕事をしたかつ
 たため。



氏名／松尾 一希
 部署／聖陵ストリームデイサービス
 職種／介護士
 聖陵会に入ったきっかけ
 将来、自分が入りたいと
 思ったから。
 (入りたいと思えた施設)



氏名／三苫 詩織
 部署／聖陵ストリーム3階
 職種／介護士
 聖陵会に入ったきっかけ
 以前、他の施設で働いて
 いて他の施設も見てみたい
 と思ったからです。



氏名／島崎 香
 部署／聖陵ストリームデイケア
 職種／看護師
 聖陵会に入ったきっかけ
 知人の紹介です。



氏名／渡邊 里沙
 部署／聖陵ストリーム3階
 職種／介護士
 聖陵会に入ったきっかけ
 老人施設関係で探している
 時、3代行事が凄そうなス
 トリームに興味を持ち希望
 しました。



氏名／石松 美紀
 部署／託児所 メーテル
 職種／保育士
 聖陵会に入ったきっかけ
 保育士の仕事を探していた
 ところ、託児所メーテルの
 求人をハローワークの方が
 勧めてくれたので。

日田漫歩 39

キドニタテカケシ



橋原 義則

聖陵会に新人が入ってきた。医師、看護師、介護士、栄養士……。若葉の季節ともあいまって組織がより生き生きとする。ところで、患者に接する機会が多いのは、やはり「ナイチンゲール誓詞」の看護師さんだろうか。

「患者さんは何らかの健康を害し、介護が必要な高齢者も多い。看護師は看護術を磨くことが肝要ですが、笑顔と優しい言葉かけ、同じ目線で気持ちを汲み取ることが大事です」。看護師長の樋口京子さんはコミュニケーションの大切さを説く。デイサービス主任は「まず、社会人としての常識を身につけて欲しいですね」。

筆者が新人に勧めたいのは「雑学のススメ」と双方向性の会話を心がけること。

「ハテ若い者は杓子定規。ナニ、家業で遠くへいくにとめるといがあるものか」（松亭金水の人情本・貞操園の朝顔）。杓子定規。何でも規則や基準で対処する、融通のきかないやり方や態度のこと。とかく世間が狭くなる。曲山

人の人情本・清談若緑には「藪から棒ちゃアわからねえ。よく静かに始めつから訳を話して聞かせねえ」というくだりもある。

筆者が若いころ、ある銀行のやり手行員から「預金獲得の際、仕事の話だけではだめ」と教わった言葉を思い出した。

「キドニタテカケシ 衣食住」

キ=季節▼ド=道徳▼ニ=ニュース▼タ=旅▼テ=天気▼カ=家庭▼ケ=健康▼シ=趣味。それに衣食住とくれば、どんな相手にも通用する話題で懷に飛び込むことが出来る。話題やポキャブラリーが乏しいと、対人関係もぎくしゃくし、億劫になる。「まだ、あるよ。相手に役立つ情報を提供したり、相談に乗ること。そのための勉強も欠かしません」



入院患者さんと職員の花見の宴

経歴：毎日新聞記者。鹿児島支局長、経済部長、編集委員を経て2000年4月、日田赴任。

Seiryō 今後の行事

- 7月 職員研修旅行
全体研修会
- 8月 聖涼祭
リバーフェスタ in みくま川



昨年の夏祭りの様子

編集後記

新メンバーになって初めての広報誌作成。法人のことや地域のことを読者の方にどんなふう伝えたいのか試行錯誤しながらの作業でした。「目次を週刊誌風にしてみても面白いかも」などと素人ならではの意見が飛び交いました。何とか発行の運びとなりましたが、今後も当法人の活動や医療のことなど分かり易くお伝えし、『次号が待ち遠しいか』と思って頂けるような記事を掲載できたらと思います。 広報委員会「宇宙」担当



医療法人 聖陵会

- ホームページ <http://www.seiryō.or.jp/index.html>
- E-mail seiryō@seiryō.or.jp

救急指定 聖陵岩里病院

介護老人保健施設 聖陵ストリーム

居宅介護サービスセンター

訪問介護サービスセンター

こども発達・支援センター銀河

聖陵花月クリニック

アンコール小児病院(カンボジア)